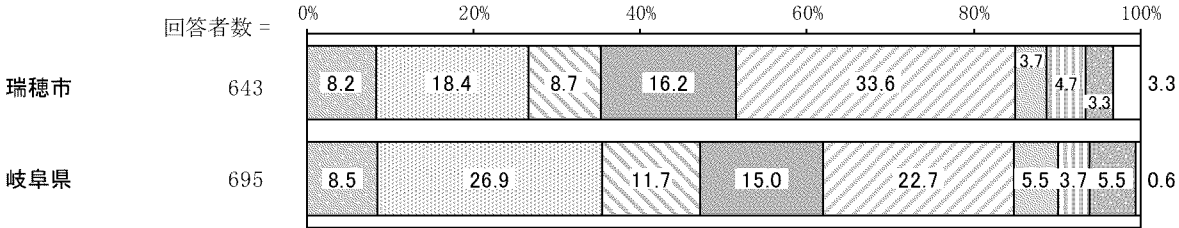


**問4 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが最も重要だと思いますか。以下から1つだけ選んで○を付けてください。**

「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」の割合が33.6%と最も高く、次いで「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」の割合が18.4%、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合が16.2%となっています。

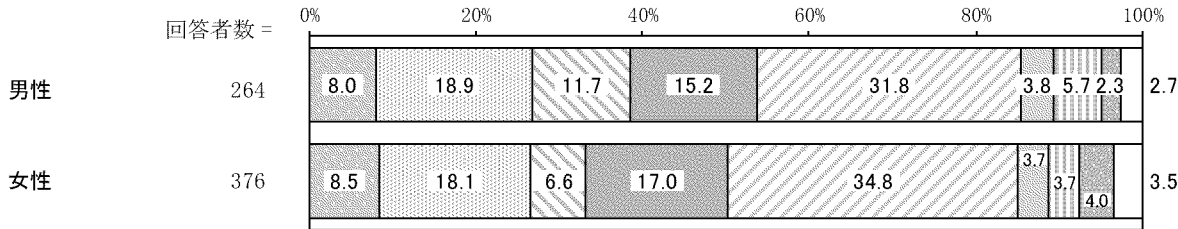
岐阜県と比較すると、「男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」の割合が高くなっています。一方、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」の割合が低くなっています。

- 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものをなくすこと
- 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること
- 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること
- 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- その他
- わからない
- 無回答



**【性別】**

性別で見ると、女性に比べ、男性で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」の割合が高くなっています。



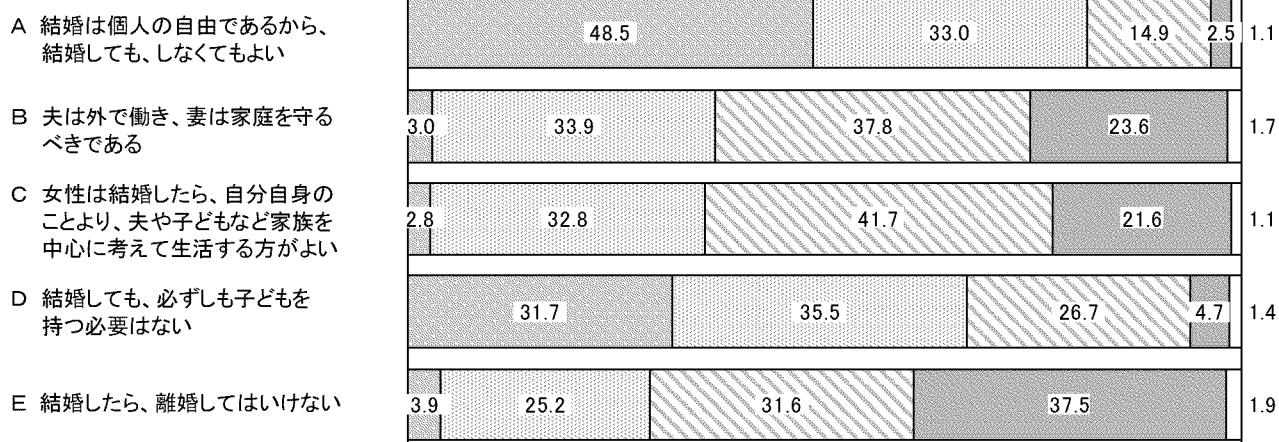
### (3) 家庭生活・結婚・家庭観について

問5 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見を伺います。AからEまで、それぞれ該当する番号（1～4）1つに○を付けてください。

『A 結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい』で「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が高くなっています。また、『B 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』『C 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい』『E 結婚したら、離婚してはいけない』で「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が高くなっています。

■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 □ 無回答

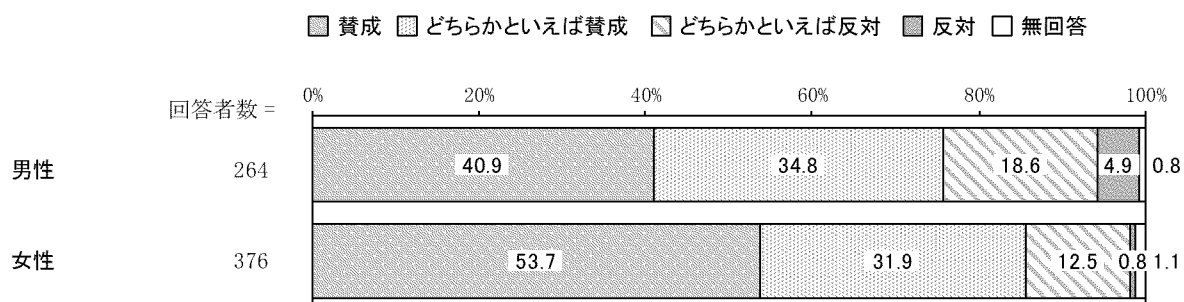
回答者数 = 643



A 結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい

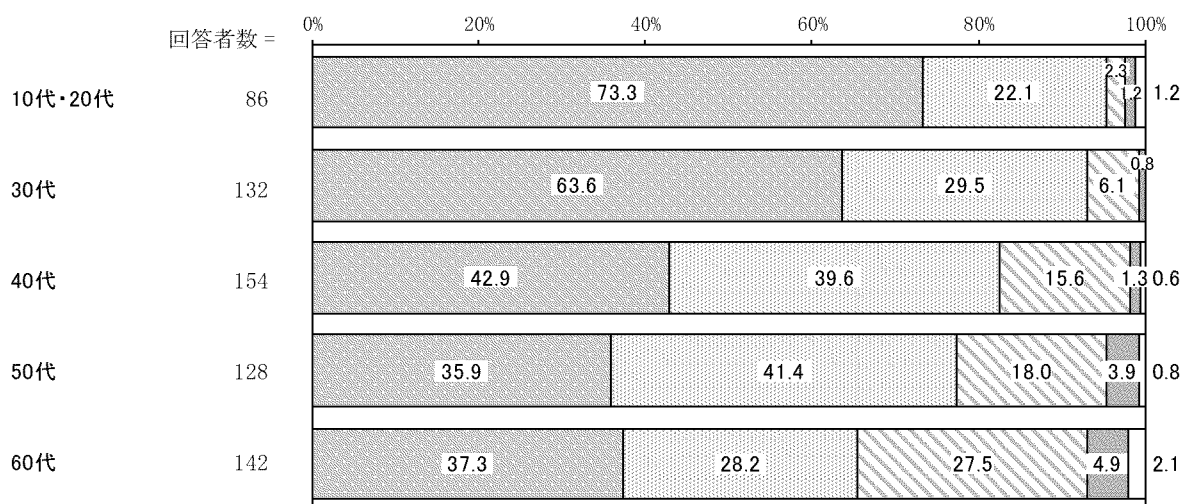
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“賛成”の割合が高くなっています。



【年齢別】

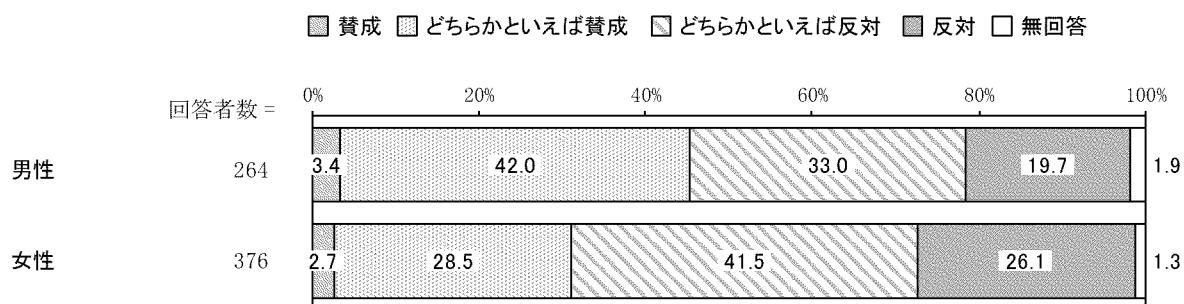
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて“反対”の割合が高くなっています。



## B 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

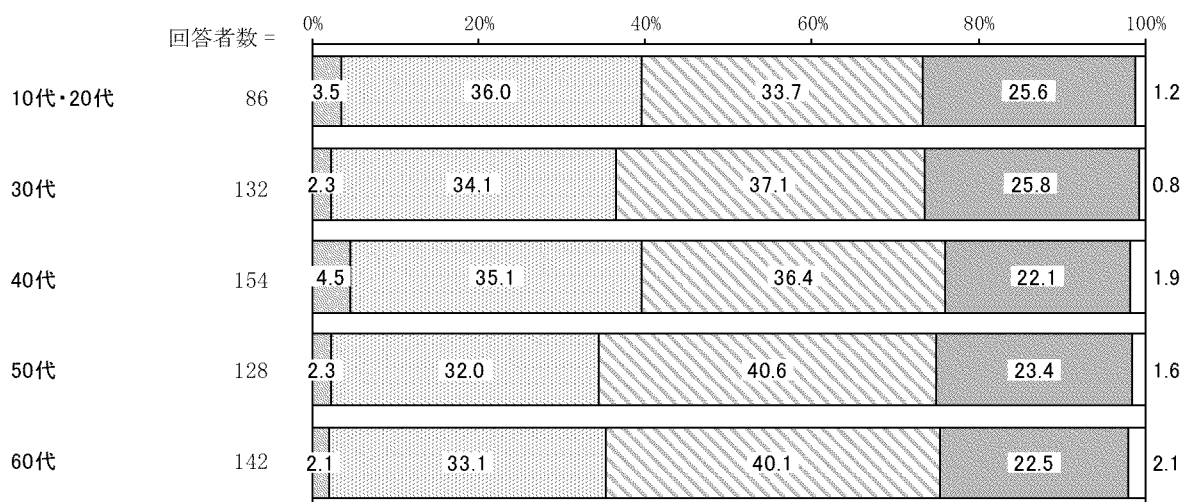
### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高くなっています。



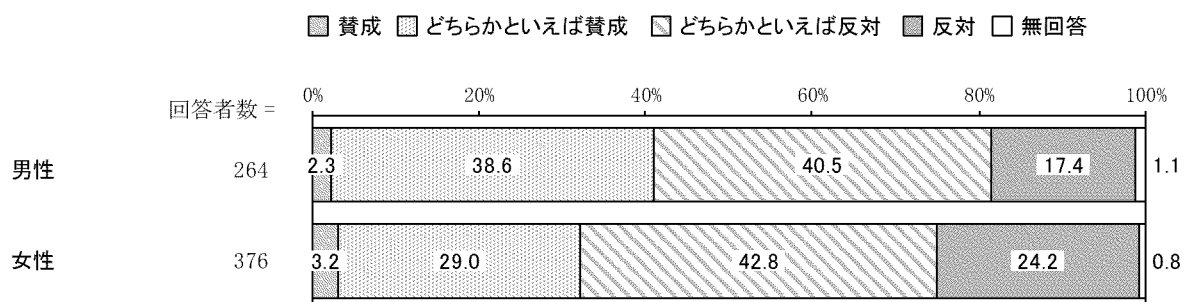
### 【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、30代、50代、60代で“反対”の割合が高くなっています。



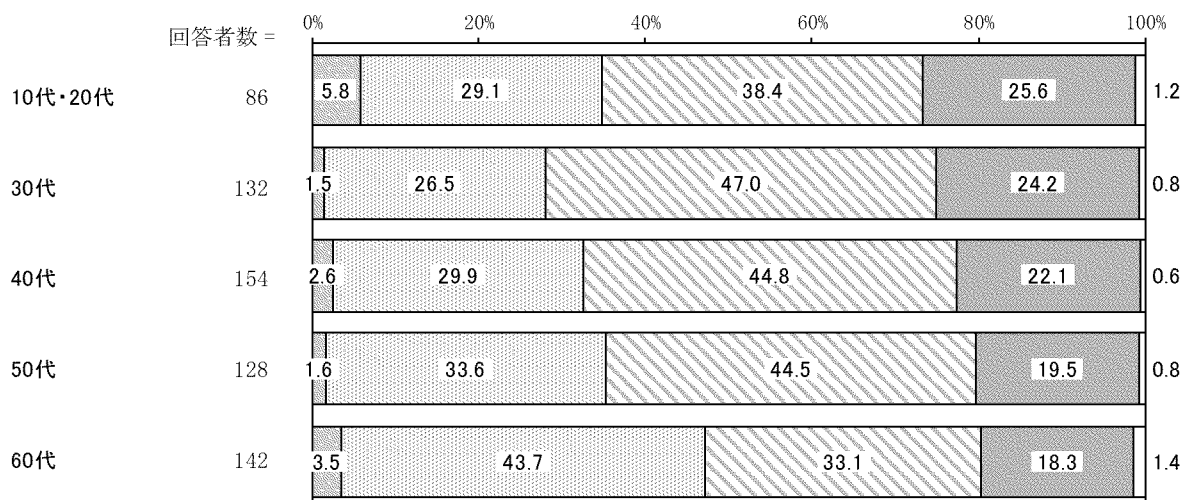
C 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい  
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高くなっています。



【年齢別】

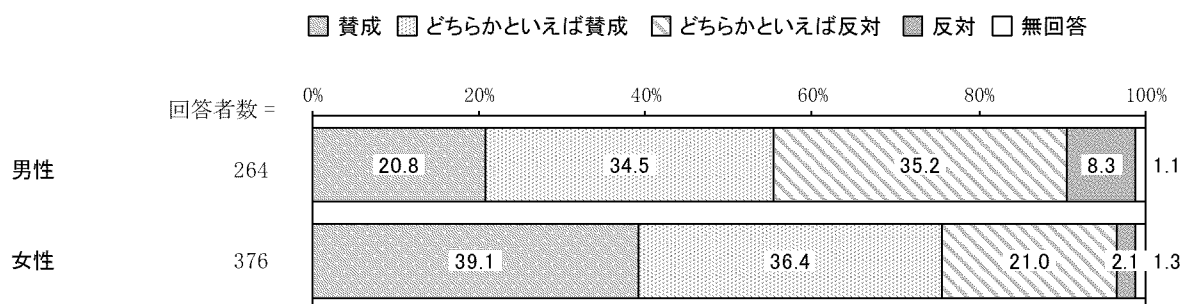
年齢別で見ると、他に比べ、60代で“賛成”の割合が、30代で“反対”の割合が高くなっています。



D 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

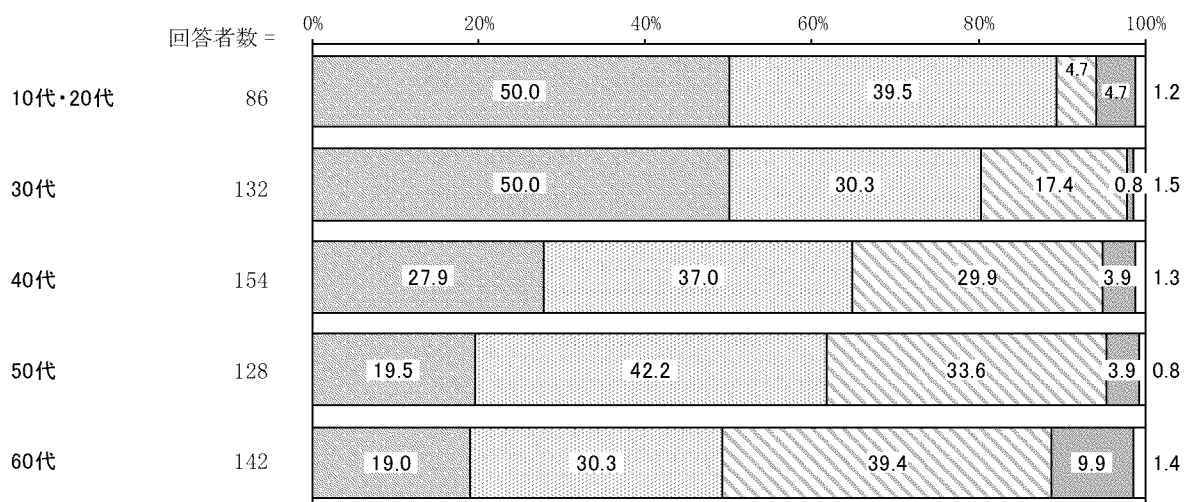
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“賛成”の割合が高くなっています。



【年齢別】

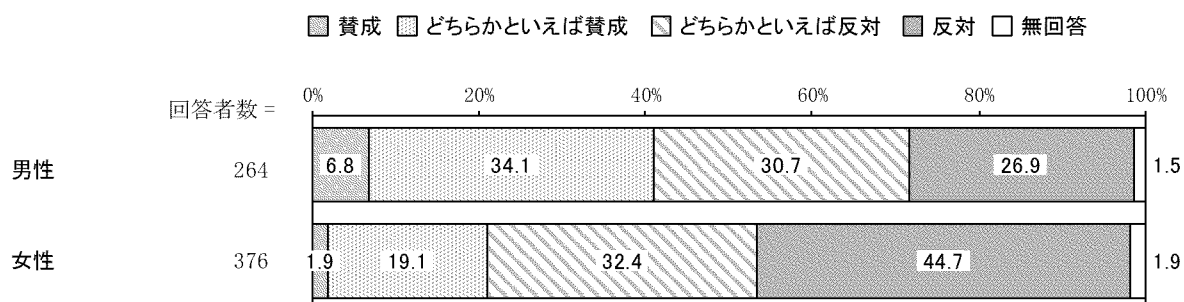
年齢別でみると、年齢が低くなるにつれて“賛成”の割合が高くなっています。



## E 結婚したら、離婚してはいけない

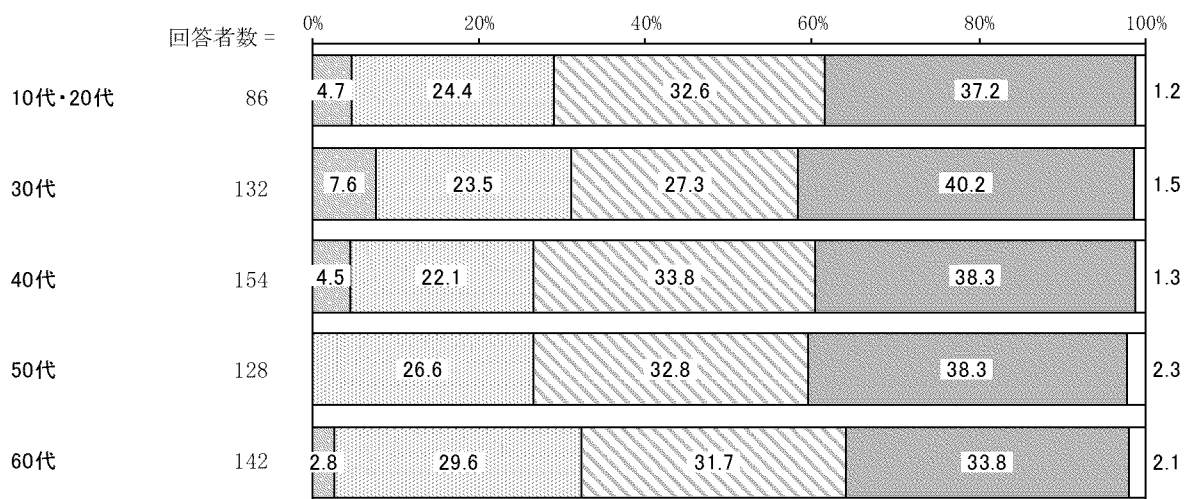
### 【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高くなっています。



### 【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、40代、50代で“反対”の割合が高くなっています。

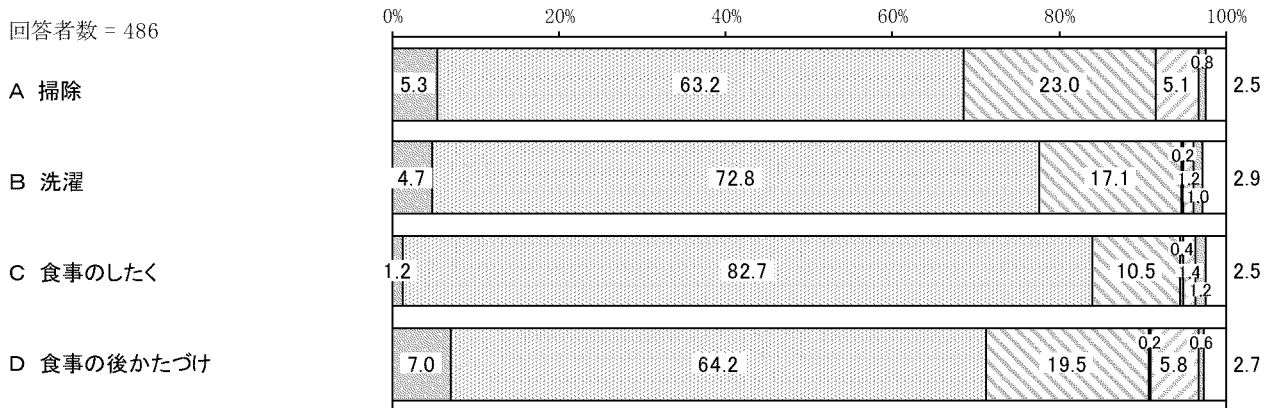


問6 配偶者がいる方（婚姻届を出していない事実婚を含む。）のみお答えください。  
 あなたの家庭では、次の家事を主に誰が分担していますか。AからHまで、それぞれ該当する番号（1～7）1つに○を付けてください。

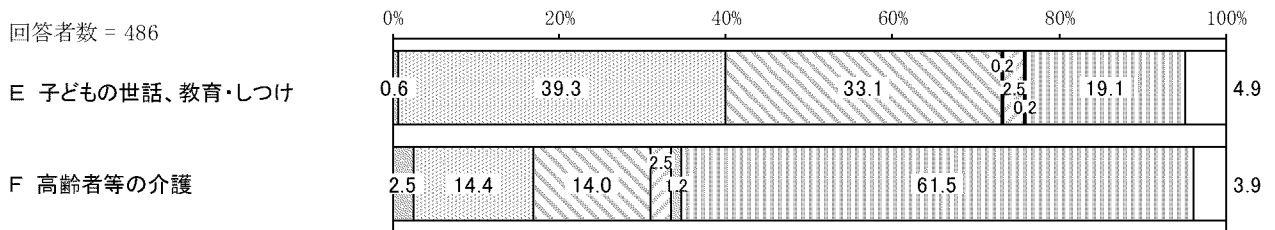
『H 自治会行事などの参加』で「夫」の割合が、『C 食事のしたく』で「妻」の割合が高くなっています。

■ 夫 ■ 妻 ■ 夫婦平等 ■ 子ども ■ 家族全員 ■ その他の人 □ 無回答

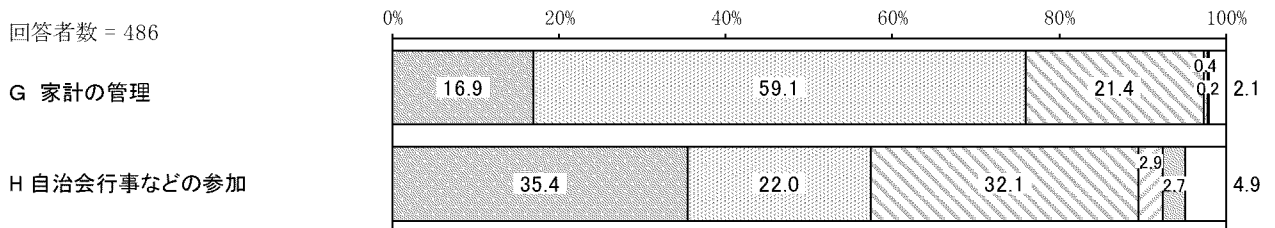
回答者数 = 486



回答者数 = 486



回答者数 = 486

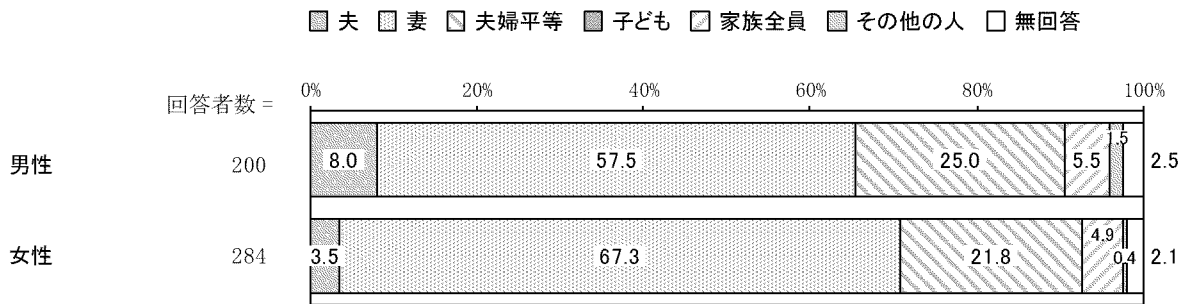




## A 掃除

### 【性別】

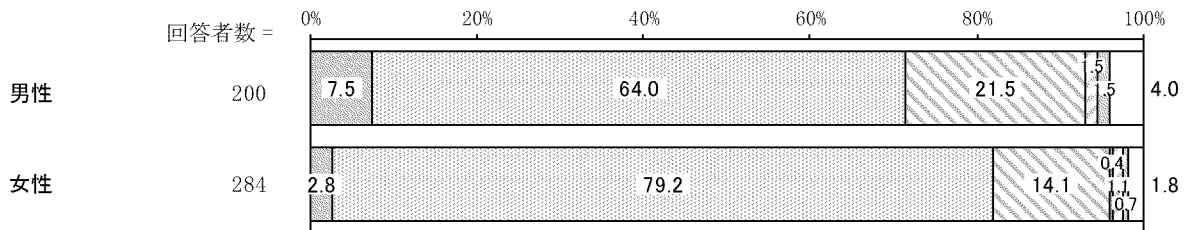
性別で見ると、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## B 洗濯

### 【性別】

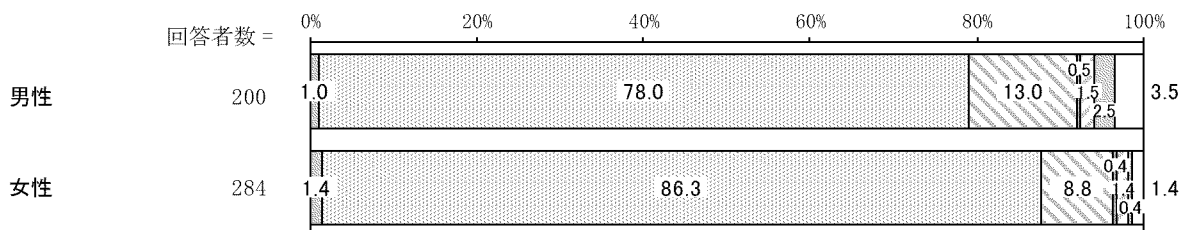
性別で見ると、女性に比べ、男性で「夫婦平等」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## C 食事のしたく

### 【性別】

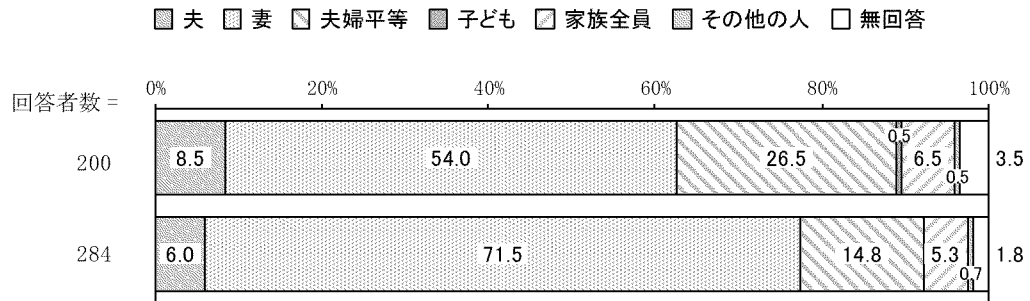
性別で見ると、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## D 食事の後かたづけ

### 【性別】

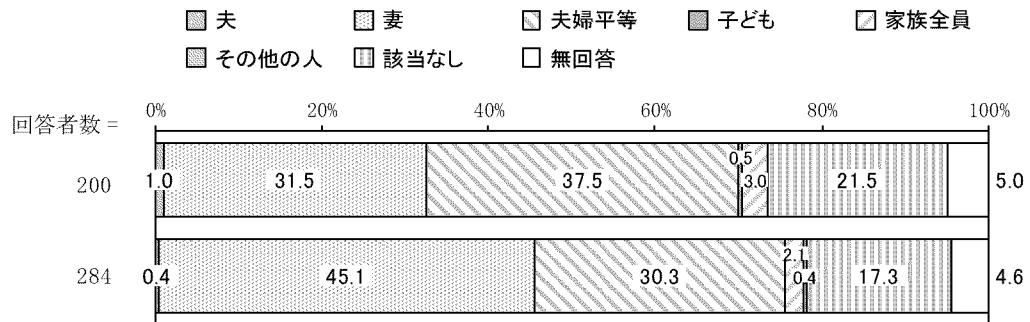
性別でみると、女性に比べ、男性で「夫婦平等」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## E 子どもの世話、教育・しつけ

### 【性別】

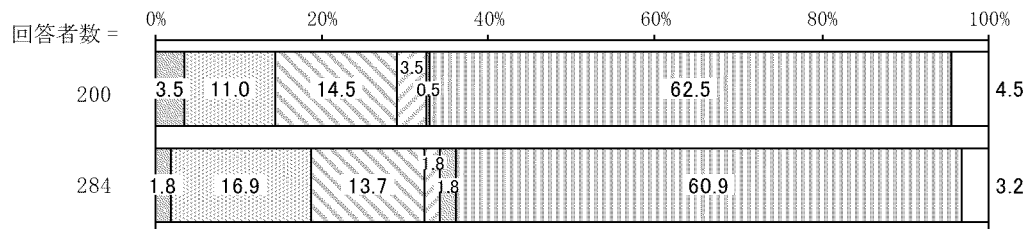
性別でみると、女性に比べ、男性で「夫婦平等」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## F 高齢者等の介護

### 【性別】

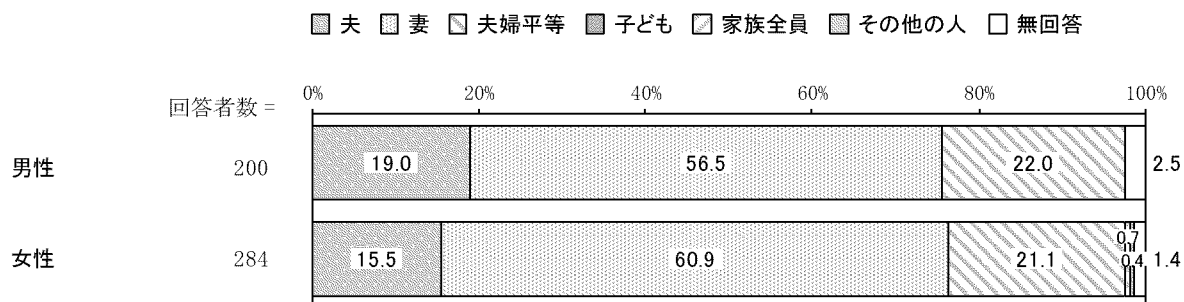
性別でみると、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



## G 家計の管理

### 【性別】

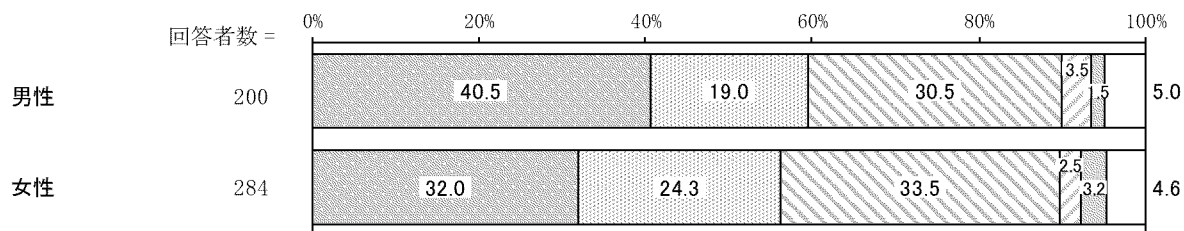
性別でみると、大きな差異はみられません。



## H 自治会行事などの参加

### 【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「夫」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「妻」の割合が高くなっています。



問6-2 配偶者がいる方（婚姻届を出していない事実婚を含む。）のみお答えください。あなたが家事・育児・介護に携わる時間は、一日あたりどれくらいですか。勤務日と勤務日以外の日について、それぞれ該当する番号（1～6）1つに○を付けてください。

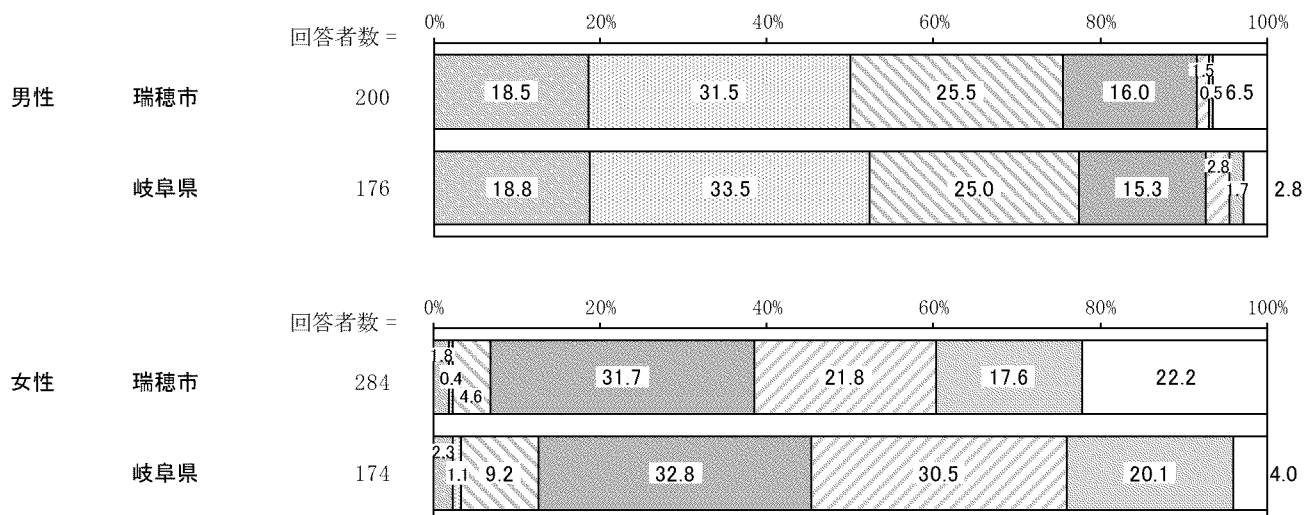
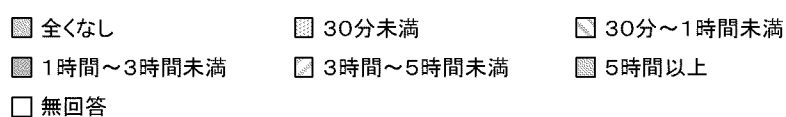
A 勤務日

男性では、「30分未満」の割合が31.5%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」の割合が25.5%、「全くなし」の割合が18.5%となっています。

岐阜県と比較すると、大きな変化はみられません。

女性では、「1時間～3時間未満」の割合が31.7%と最も高く、次いで「3時間～5時間未満」の割合が21.8%、「5時間以上」の割合が17.6%となっています。

岐阜県と比較すると、「3時間～5時間未満」の割合が低くなっています。



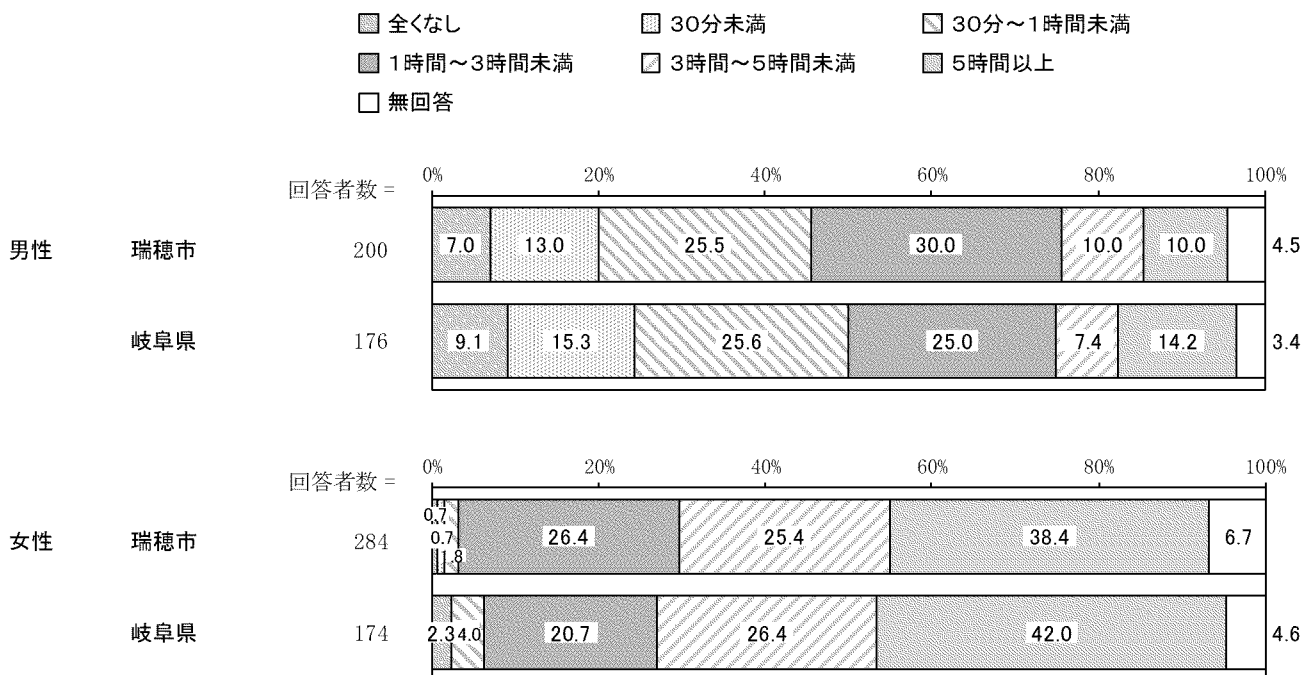
## B 勤務日以外の日

男性では、「1時間～3時間未満」の割合が30.0%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」の割合が25.5%、「30分未満」の割合が13.0%となっています。

岐阜県と比較すると、大きな変化はみられません。

女性では、「5時間以上」の割合が38.4%と最も高く、次いで「1時間～3時間未満」の割合が26.4%、「3時間～5時間未満」の割合が25.4%となっています。

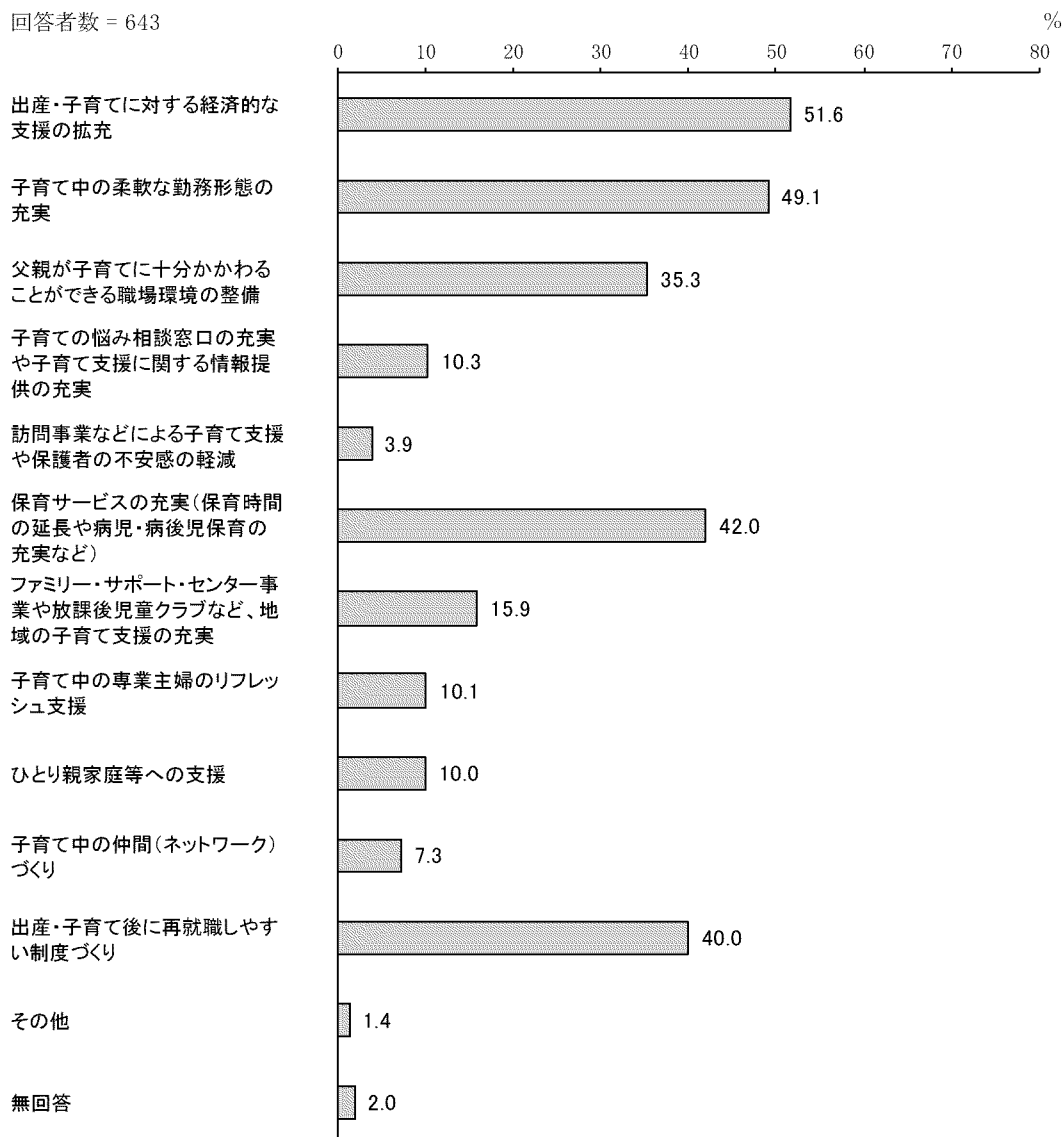
岐阜県と比較すると、「1時間～3時間未満」の割合が高くなっています。



問7 安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は3つまで)

「出産・子育てに対する経済的な支援の拡充」の割合が51.6%と最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」の割合が49.1%、「保育サービスの充実（保育時間の延長や病児・病後児保育の充実など）」の割合が42.0%となっています。

回答者数 = 643



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「出産・子育てに対する経済的な支援の拡充」「子育ての悩み相談窓口の充実や子育て支援に関する情報提供の充実」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」「保育サービスの充実（保育時間の延長や病児・病後児保育の充実など）」「ファミリー・サポート・センター事業や放課後児童クラブなど、地域の子育て支援の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	出産・子育てに対する経済的な支援の拡充	子育て中の柔軟な勤務形態の充実	父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備	子育ての悩み相談窓口の充実や子育て支援に関する情報提供の充実	訪問事業などによる子育て支援や保護者の不安感の軽減	保育サービスの充実（保育時間の延長や病児・病後児保育の充実など）	ファミリー・サポート・センター事業や放課後児童クラブなど、地域の子育て支援の充実	子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援	ひとり親家庭等への支援	子育て中の仲間（ネットワーク）づくり	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	その他	無回答
男性	264	59.1	44.3	36.0	14.0	3.0	38.6	11.4	11.0	12.1	7.6	37.9	0.4	0.4
女性	376	46.3	52.9	34.6	7.7	4.3	44.4	19.1	9.3	8.2	7.2	41.8	1.9	3.2

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、10代・20代、30代で「出産・子育てに対する経済的な支援の拡充」の割合が高くなっています。また、10代・20代で「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」の割合が、40代で「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

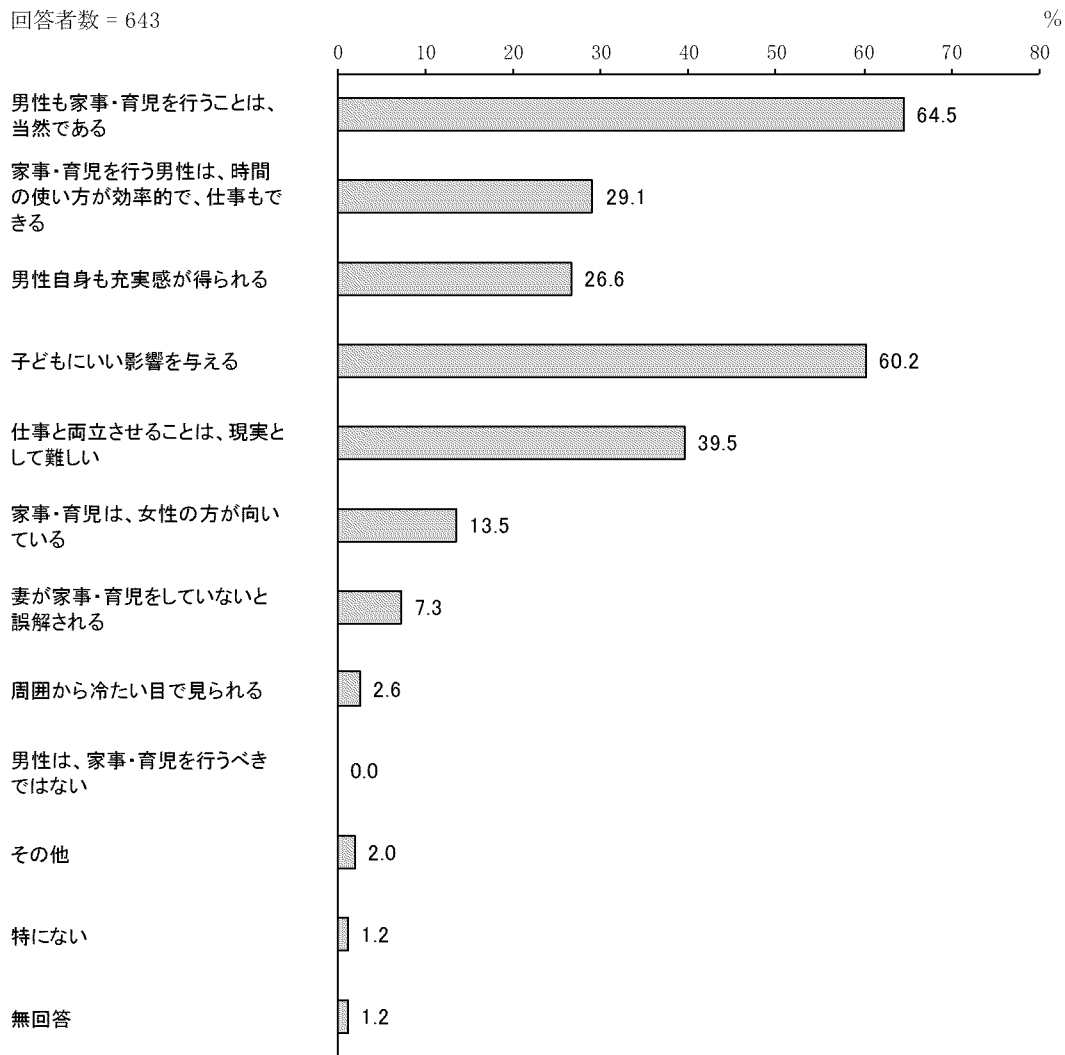
区分	有効回答数(件)	出産・子育てに対する経済的な支援の拡充	子育て中の柔軟な勤務形態の充実	父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備	子育ての悩み相談窓口の充実や子育て支援に関する情報提供の充実	訪問事業などによる子育て支援や保護者の不安感の軽減	保育サービスの充実(保育時間の延長や病児・病後児保育の充実など)	児童クラブなど、地域の子育て支援の充実	ファミリー・サポート・センター事業や放課後児童クラブなど、地域の子育て支援の充実	子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援	ひとり親家庭等への支援	子育て中の仲間(ネットワーク)づくり	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	その他	無回答
10代・20代	86	62.8	46.5	50.0	7.0	2.3	44.2	9.3	11.6	12.8	5.8	34.9	1.2	1.2	
30代	132	62.1	49.2	36.4	11.4	3.0	37.9	15.2	10.6	7.6	3.8	38.6	0.8	1.5	
40代	154	53.2	53.9	29.9	9.7	1.9	38.3	13.6	13.0	8.4	8.4	39.0	1.9	3.2	
50代	128	42.2	46.9	34.4	10.9	2.3	46.9	17.2	6.3	12.5	5.5	42.2	1.6	2.3	
60代	142	41.5	47.9	32.4	11.3	8.5	44.4	21.8	8.5	9.9	12.0	43.7	1.4	1.4	



問8 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)

「男性も家事・育児を行うことは、当然である」の割合が64.5%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」の割合が60.2%、「仕事と両立させることは、現実として難しい」の割合が39.5%となっています。

回答者数 = 643



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「仕事と両立させることは、現実として難しい」「家事・育児は、女性の方が向いている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」「子どもにいい影響を与える」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男性も家事・育児を行うことは、当然である	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児は、女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他	特になし	無回答
男性	264	62.9	22.0	28.4	49.6	43.9	19.7	5.7	3.0	—	2.3	1.9	—
女性	376	66.0	34.3	25.5	68.1	36.4	9.0	8.2	2.1	—	1.9	0.8	2.1

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、10代・20代で「男性も家事・育児を行うことは、当然である」「子どもにいい影響を与える」の割合が高くなっています。

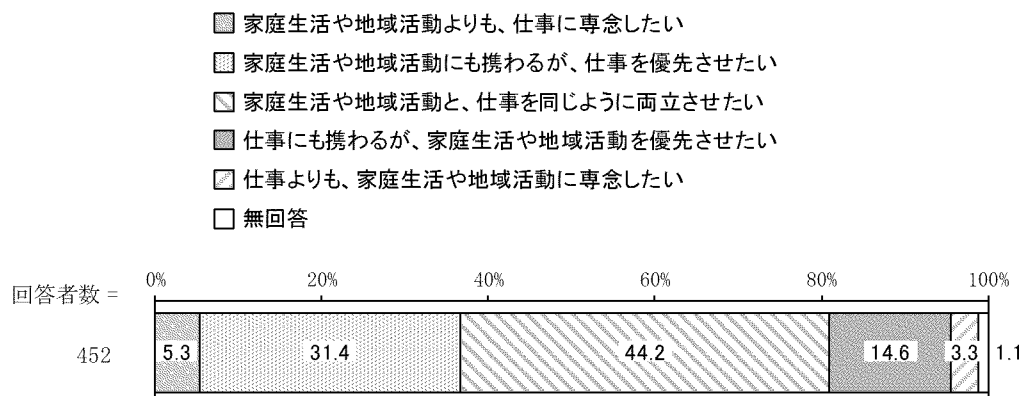
単位：％

区分	有効回答数(件)	男性も家事・育児を行うことは、当然である	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児は、女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他	特になし	無回答
10代・20代	86	73.3	33.7	39.5	67.4	40.7	17.4	11.6	2.3	—	1.2	1.2	—
30代	132	61.4	28.0	22.0	62.1	38.6	12.9	6.8	1.5	—	3.0	0.8	0.8
40代	154	63.0	30.5	29.9	62.3	37.7	11.7	9.7	4.5	—	3.9	1.9	1.9
50代	128	61.7	28.9	25.8	54.7	42.2	13.3	5.5	3.1	—	1.6	0.8	1.6
60代	142	66.9	26.1	20.4	57.0	38.7	13.4	4.2	1.4	—	—	1.4	1.4

#### (4) 就労・働き方について

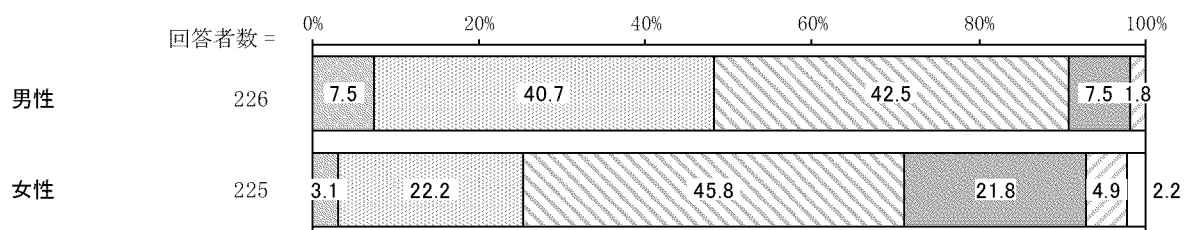
問9 現在、職業に就いている方のみお答えください。あなたの働き方について、希望に最も近いものは次のどれですか。該当する番号1つに○を付けてください。

「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させたい」の割合が44.2%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させたい」の割合が31.4%、「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させたい」の割合が14.6%となっています。



#### 【性別】

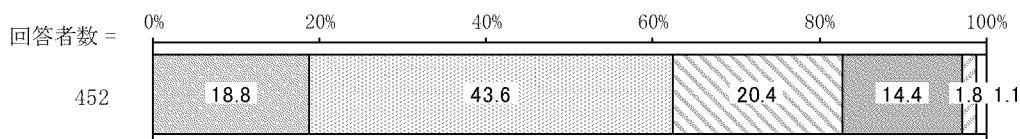
性別でみると、女性に比べ、男性で「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させたい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させたい」の割合が高くなっています。



問 10 あなたの働き方について、現在の状況に最も近いものは次のどれですか。該当する番号1つに○を付けてください。

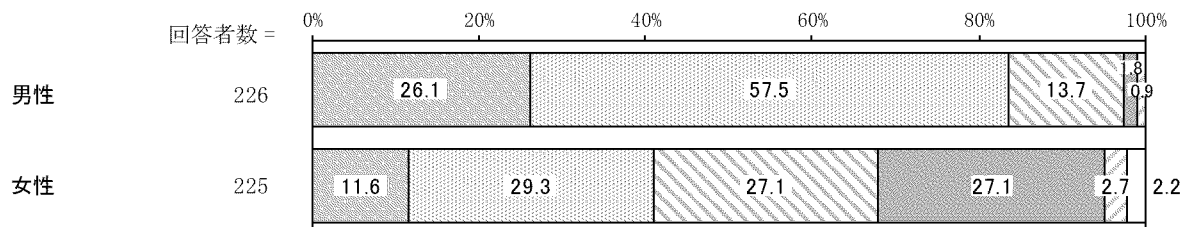
「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させている」の割合が43.6%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させている」の割合が20.4%、「家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念している」の割合が18.8%となっています。

- 家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念している
- 家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させている
- 家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させている
- 仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させている
- 仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念している
- 無回答



【性別】

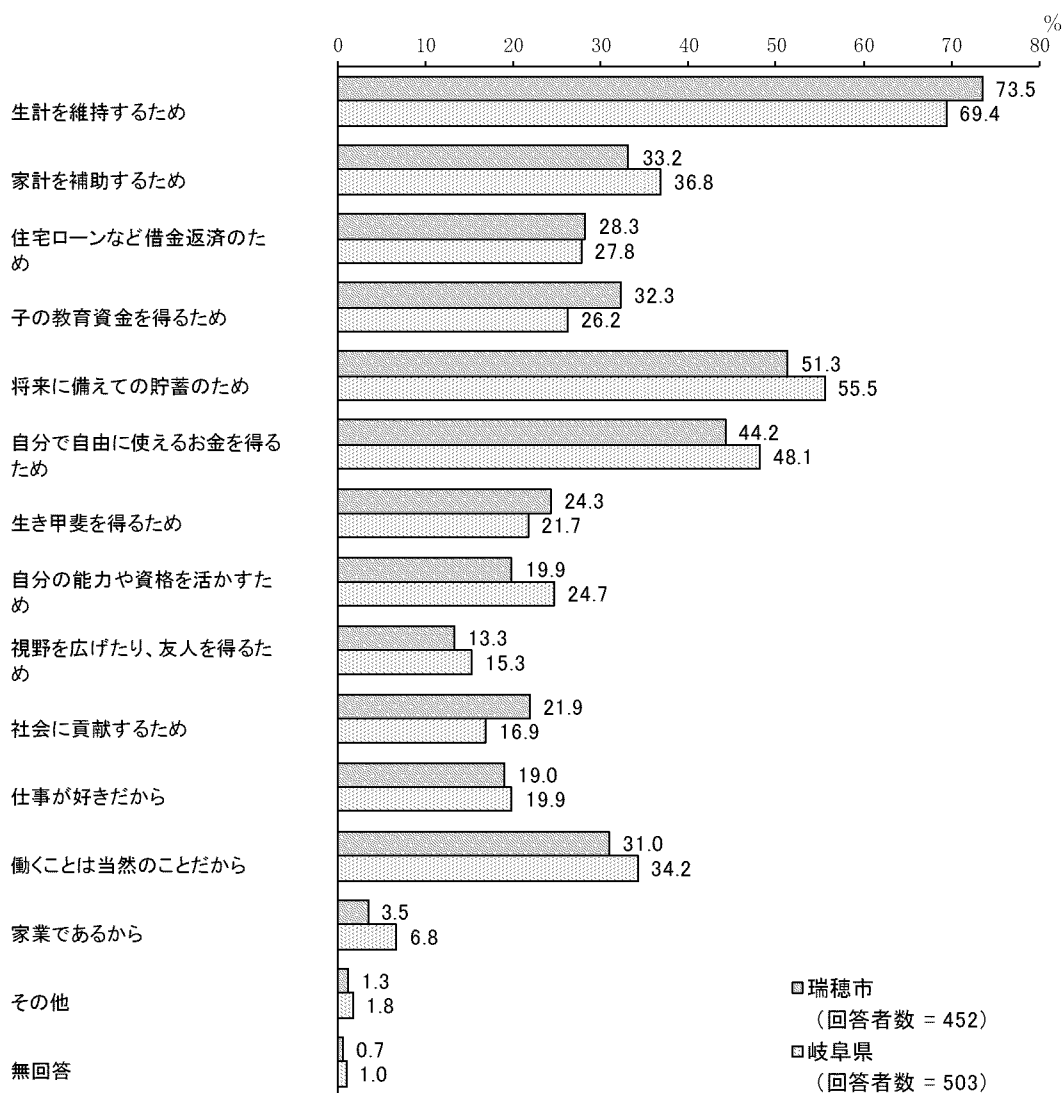
性別でみると、女性に比べ、男性で「家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念している」「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させている」「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させている」の割合が高くなっています。



問 11 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。該当する番号すべてに○を付けてください。

「生計を維持するため」の割合が73.5%と最も高く、次いで「将来に備えての貯蓄のため」の割合が51.3%、「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が44.2%となっています。

岐阜県と比較すると、岐阜県に比べ、瑞穂市で「生計を維持するため」「子の教育資金を得るため」「社会に貢献するため」の割合が高くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「生計を維持するため」「住宅ローンなど借金返済のため」「将来に備えての貯蓄のため」「社会に貢献するため」「働くことは当然のことだから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「家計を補助するため」「自分で自由に使えるお金を得るため」「生き甲斐を得るため」「自分の能力や資格を活かすため」「視野を広げたり、友人を得るため」「仕事が好きだから」の割合が高くなっています。

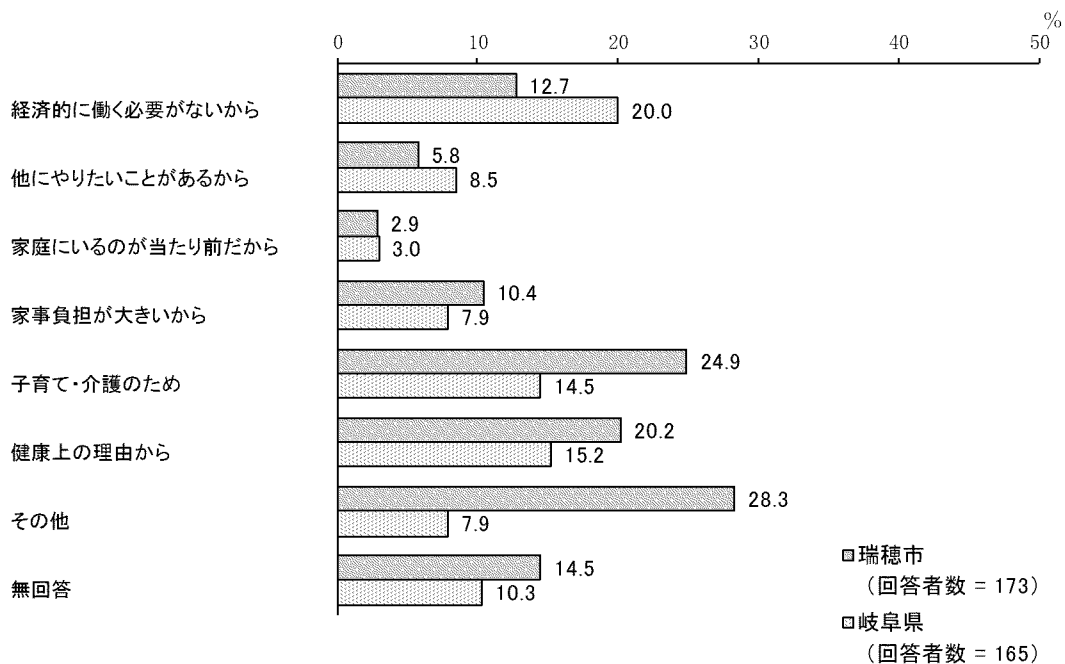
単位：％

区分	有効回答数(件)	生計を維持するため	家計を補助するため	住宅ローンなど借金返済のため	子の教育資金を得るため	蓄のため	将来に備えての貯蓄のため	自分で自由に使えるお金を得るため	生き甲斐を得るため	自分の能力や資格を活かすため	視野を広げたり、友人を得るため	社会に貢献するため	仕事が好きだから	働くことは当然のことだから	家業であるから	その他	無回答
男性	226	92.0	19.0	38.1	34.1	55.8	38.9	20.8	14.2	7.5	25.7	14.2	38.5	2.7	1.3	—	
女性	225	54.7	47.6	18.7	30.2	46.7	49.3	27.6	25.3	19.1	17.8	23.6	23.6	4.4	1.3	1.3	

問 12 現在、職業に就いていない方のみお答えください。あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。該当する番号すべてに○を付けてください。

「子育て・介護のため」の割合が 24.9%と最も高く、次いで「健康上の理由から」の割合が 20.2%、「経済的に働く必要がないから」の割合が 12.7%となっています。

岐阜県と比較すると、岐阜県に比べ、瑞穂市で「子育て・介護のため」「健康上の理由から」の割合が高くなっています。また、「経済的に働く必要がないから」が低くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「他にやりたいことがあるから」「健康上の理由から」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「経済的に働く必要がないから」「家事負担が大きいから」「子育て・介護のため」の割合が高くなっています。

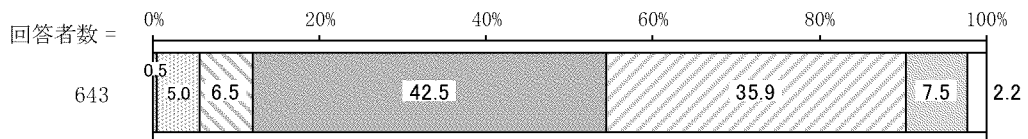
単位：%

区分	有効回答数(件)	経済的に働く必要がないから	他にやりたいことがあるから	家庭にいたり前だから	家事負担が大きいから	子育て・介護のため	健康上の理由から	その他	無回答
男性	35	8.6	11.4	—	2.9	—	25.7	42.9	14.3
女性	137	13.9	4.4	3.6	12.4	31.4	19.0	24.1	14.6

問 13 女性が職業に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。最も近い考え方の番号（1～6）1つに○を付けてください。

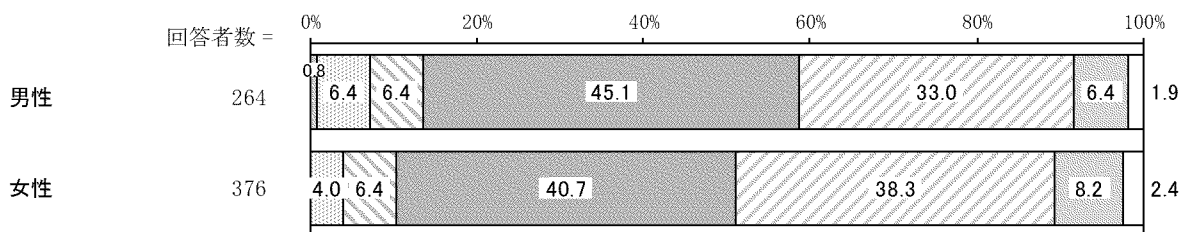
「子どもができて職業を続ける方がよい」の割合が42.5%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」の割合が35.9%となっています。

- 女性は職業に就かない方がよい
- 結婚するまでは職業に就く方がよい
- 子どもができるまでは職業に就く方がよい
- 子どもができて職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい
- その他
- 無回答



【性別】

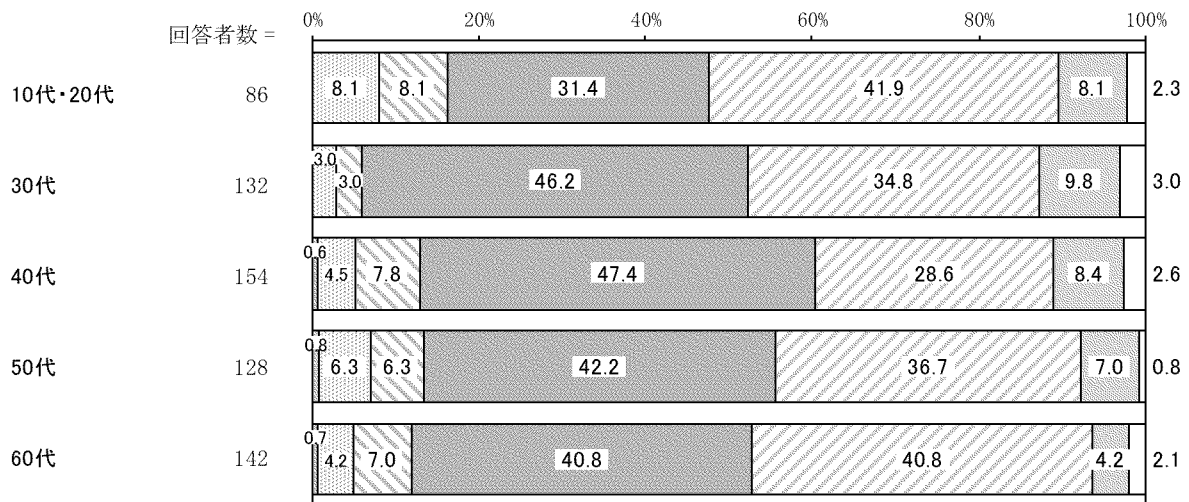
性別でみると、男性に比べ、女性で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」の割合が高くなっています。



**【年齢別】**

年齢別でみると、他に比べ、10代・20代、60代で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」の割合が、30代、40代で「子どもができて職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

- 女性は職業に就かない方がよい
- 結婚するまでは職業に就く方がよい
- 子どもができるまでは職業に就く方がよい
- 子どもができて職業を続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい
- その他
- 無回答

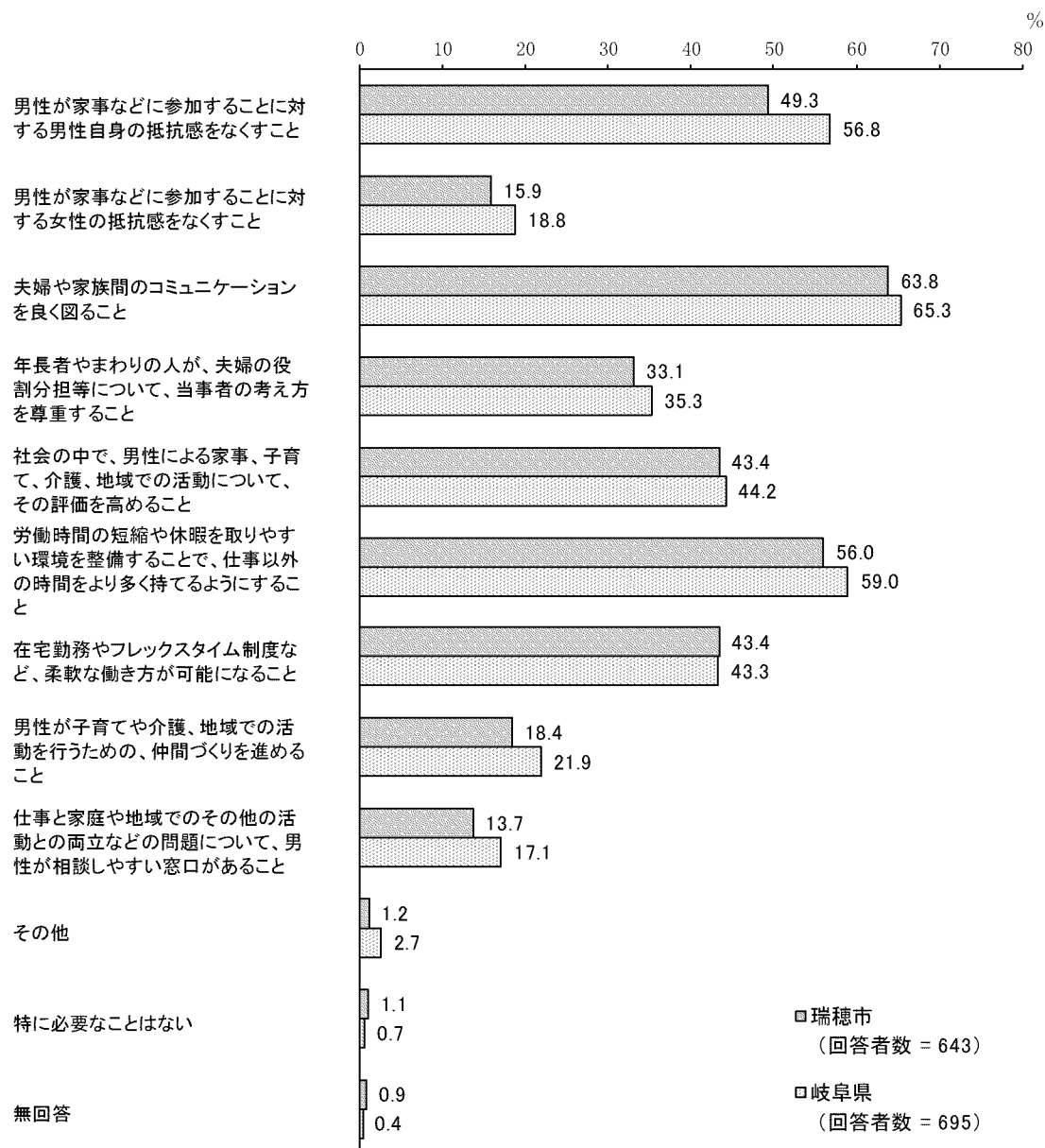




問 14 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。該当する番号（1～11）すべてに○を付けてください。

「夫婦や家族間のコミュニケーションを良く図ること」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が 56.0%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 49.3%となっています。

岐阜県と比較すると、岐阜県に比べ、瑞穂市で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が低くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年長者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について、当事者の考え方を尊重すること」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域での活動について、その評価を高めること」「男性が子育てや介護、地域での活動を行うための、仲間づくりを進めること」の割合が高くなっています。

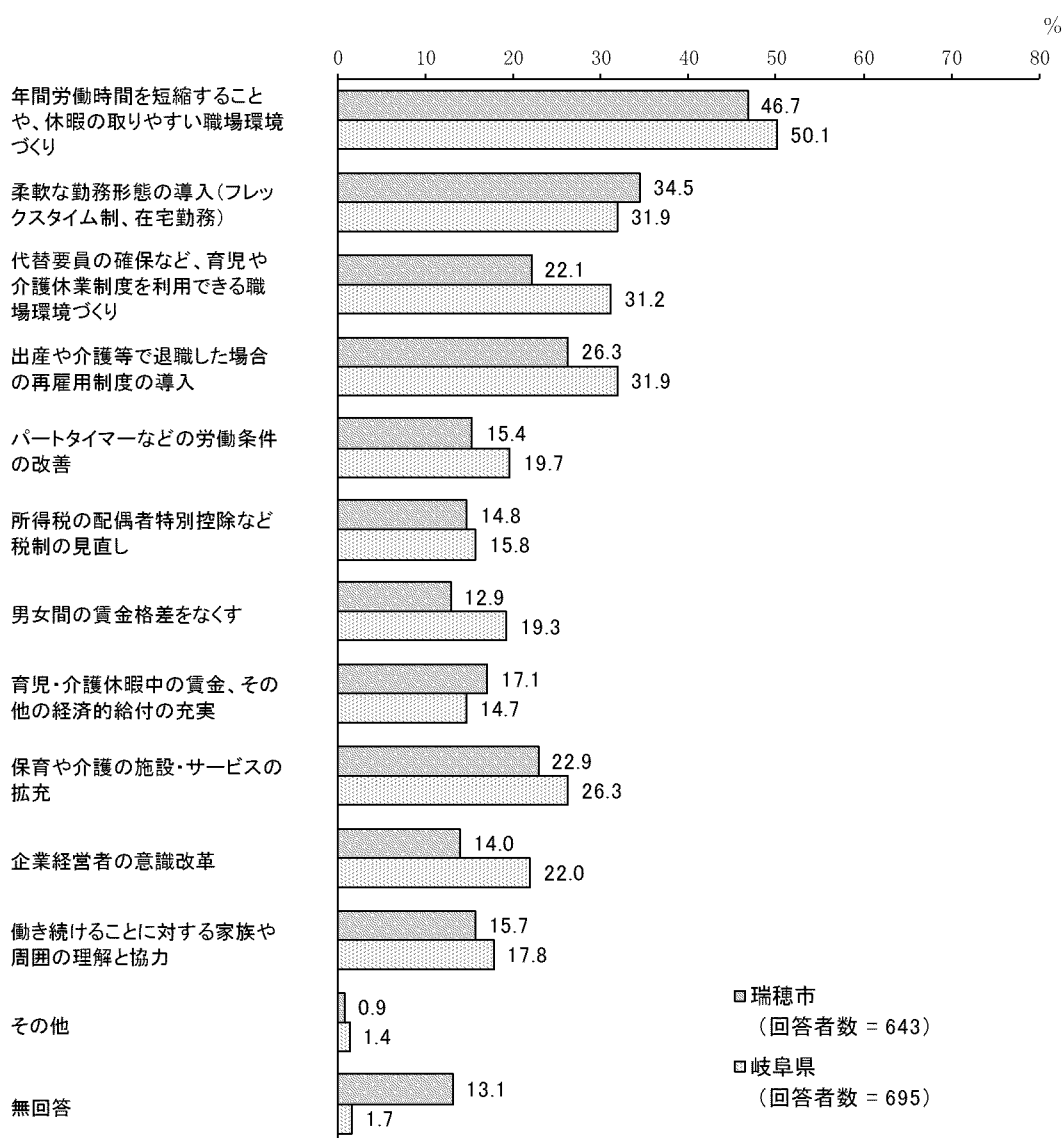
単位：%

区分	有効回答数（件）	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間のコミュニケーションを良く図ること	年長者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について、当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域での活動について、その評価を高めること	労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な働き方が可能になること	男性が子育てや介護、地域での活動を行うための、仲間づくりを進めること	仕事と家庭や地域でのその他の活動との両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口があること	その他	特に必要なことはない	無回答
男性	264	42.4	15.2	64.0	25.4	35.6	59.1	44.3	13.6	14.8	1.1	1.1	0.4
女性	376	54.3	16.5	64.1	38.3	48.9	54.0	42.8	21.5	12.8	1.3	0.8	1.3

問 15 それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。該当する番号（1～12）3つに○を付けてください。

「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」の割合が46.7%と最も高く、次いで「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務）」の割合が34.5%、「出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入」の割合が26.3%となっています。

岐阜県と比較すると、岐阜県に比べ、瑞穂市で「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり」「出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入」「男女間の賃金格差をなくす」「企業経営者の意識改革」の割合が低くなっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「パートタイマーなどの労働条件の改善」「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり	柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務）	代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり	出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入	パートタイマーなどの労働条件の改善	所得税の配偶者特別控除など税制の見直し	男女間の賃金格差をなくす	育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実	保育や介護の施設・サービスの拡充	企業経営者の意識改革	働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力	その他	無回答
男性	264	48.1	33.7	22.3	25.8	10.6	16.7	11.4	19.3	20.8	14.0	9.8	1.1	15.2
女性	376	45.7	35.4	22.1	26.9	18.9	13.6	14.1	15.4	24.5	14.1	19.9	0.8	11.4

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、10代・20代で「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」の割合が、60代で「出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入」の割合が高くなっています。

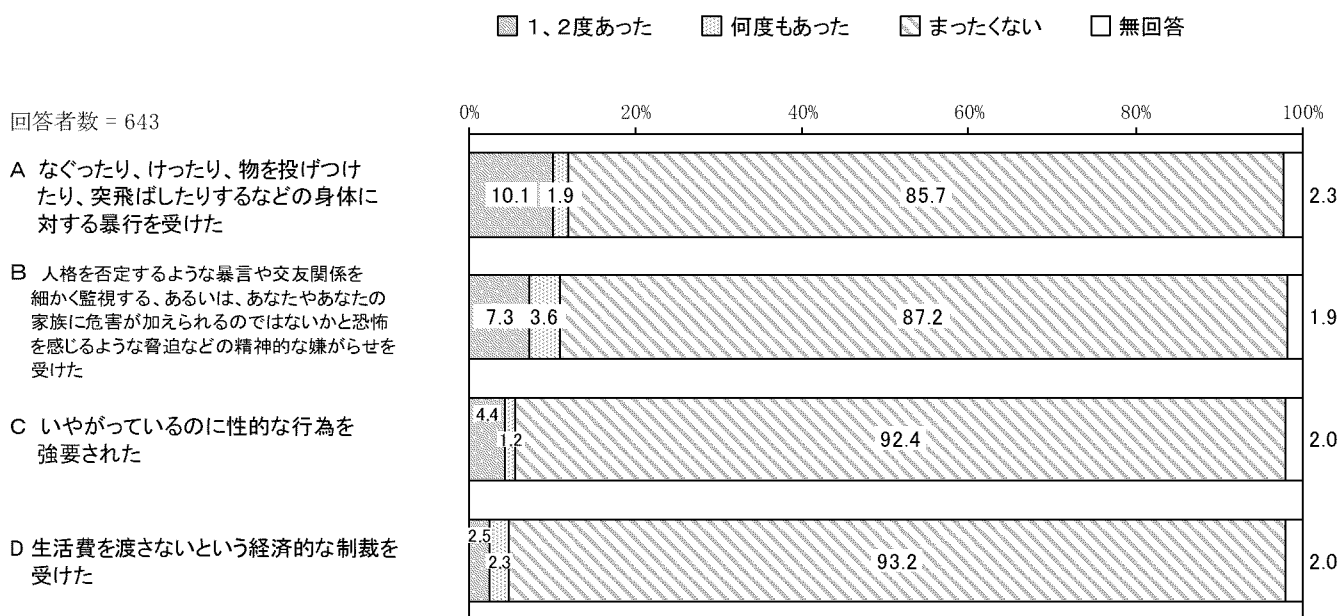
単位：％

区分	有効回答数（件）	年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり	柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務）	代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり	出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入	パートタイマーなどの労働条件の改善	所得税の配偶者特別控除など税制の見直し	男女間の賃金格差をなくす	育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実	保育や介護の施設・サービスの拡充	企業経営者の意識改革	働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力	その他	無回答
10代・20代	86	60.5	39.5	23.3	23.3	8.1	16.3	18.6	27.9	18.6	5.8	14.0	—	11.6
30代	132	44.7	31.1	15.2	21.2	14.4	14.4	6.8	18.9	22.0	8.3	9.1	2.3	22.7
40代	154	48.7	36.4	20.8	24.7	15.6	15.6	14.3	12.3	20.1	15.6	17.5	1.3	13.0
50代	128	43.0	34.4	27.3	26.6	14.8	18.0	14.1	14.8	23.4	13.3	14.1	0.8	10.9
60代	142	41.5	33.1	24.6	34.5	21.1	10.6	12.7	15.5	28.9	23.2	22.5	—	7.0

## (5) ドメスティック・バイオレンス (DV: 配偶者・パートナーからの暴力) など、人権への配慮について

問 16 あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から A から D の行為を受けたことがありますか。それぞれ該当する番号 (1 ~ 3) 1 つに○を付けてください。  
 ※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

『A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた』で「1、2度あった」の割合が高くなっています。



### A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「1、2度あった」の割合が高くなっています。

